

2025年度
事業報告書

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日



公益財団法人 日本盲導犬協会

横浜市港北区新吉田町6001-9

TEL:045-590-1595 FAX:045-590-1599

I. 公益目的事業

1. 盲導犬育成事業

(1) 視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬貸与

視覚障害者に対する歩行指導を36人に実施。結果、35頭の盲導犬、36ユニットの貸与（内ご夫婦2人で1頭を使用するタンデムは、1ユニット）。

35頭36ユニットの内訳は、神奈川訓練センター（以下、神奈川センター）19頭20ユニット、仙台訓練センター（以下、スマイルワン仙台）10頭10ユニット、日本盲導犬総合センター（以下、富士ハーネス）6頭6ユニット、島根あさひ訓練センター（以下、島根パピネス）0頭0ユニット。代替が30頭31ユニットで、新規が5頭5ユニットであった。

登録番号	盲導犬使用者		卒業年月日	新規／代替
	性別	都道府県		
日本-1141	男	東京	2025/4/18	代替
日本-1142	男	山梨	2025/4/18	代替
日本-1143	女	宮城	2025/4/26	代替
日本-1144	男	島根	2025/5/5	代替
日本-1145	男	山形	2025/5/7	代替
日本-1146	男	山形	2025/6/6	代替
日本-1147	女	神奈川	2025/6/6	代替
日本-1148	男	岩手	2025/6/6	新規
日本-1149	男	神奈川	2025/6/27	代替
日本-1150	女	千葉	2025/6/30	代替
日本-1151	男	石川	2025/9/19	代替
日本-1152	男	宮城	2025/10/3	代替
日本-1153	男	広島	2025/10/9	代替
日本-1154	女	茨城	2025/10/10	代替
日本-1155	男	静岡	2025/10/17	代替
日本-1156	女	岩手	2025/10/17	新規
日本-1157	男	島根	2025/11/7	代替
日本-1158	女	東京	2025/11/14	代替
日本-1159	女	千葉	2025/11/21	新規
日本-1160	男	群馬	2025/11/28	代替
日本-1161	男	東京	2025/11/28	代替
日本-1162	女	長野	2025/12/5	新規
日本-1163	女	愛媛	2025/12/11	代替
日本-1164	女	東京	2025/12/26	代替
日本-1165	男	東京	2026/1/9	代替

日本-1166	女	岡山	2026/1/23	代替
日本-1167	女	山梨	2026/1/24	代替
日本-1168	女	神奈川	2026/2/9	代替
日本-1169	女	千葉	2026/2/20	代替
日本-1170	女	千葉	2026/3/6	新規
日本-1171	女	神奈川	2026/3/6	代替
日本-1172	女	埼玉	2026/3/13	代替
日本-1173	女	静岡	2026/3/13	代替
日本-1174	女	宮城	2026/3/20	代替
日本-1175	女	神奈川	2026/3/27	代替
日本-1176	男	東京	2026/3/27	代替

(2) 犬の飼育及び訓練

①候補犬の訓練

本年度に訓練した候補犬は164頭で内訳は次のとおり。なお、この期間に訓練に加わった犬は、94頭である。

訓練終了犬	合 格 犬 (盲導犬)	35頭
	合 格 犬 (繁殖犬)	4頭
	キャリアチェンジ犬	53頭
	計	92頭
訓練過程犬	未 決 定 犬	72頭

②繁殖犬の頭数と繁殖状況

本年度に、雄1頭及び雌3頭を新たに繁殖犬として登録した。その結果、3月末現在で、雄16頭、雌26頭、計42頭の繁殖犬を保有している。本年度の出産頭数は90頭。加えて、譲受8頭。譲渡5頭を差し引きすると、子犬93頭を確保した。

③パピーウォーキング委託状況

本年度に、新たにパピーウォーカー（以下、PW）に委託した頭数は95頭。スケジュールなどの共有を目的としたパピーカレンダーを定期的に送付し、ワクチンや不妊手術、眼検査の日程などスケジュール管理を計画的に行った。

④パピーのしつけと飼育指導

訓練センターでのパピーレクチャーは合計127日167回実施した。

⑤盲導犬の引退・ユニット解消状況

本年度に45頭、47ユニットの盲導犬が引退またはユニット解消した。

登録番号	盲導犬使用者		引退年月日
	性別	都道府県	
日本-840	男	山梨	2025/4/7

日本-990	男	東京	2025/4/7
日本-991	女	東京	2025/4/7
日本-919	女	千葉	2025/4/8
日本-773	女	宮城	2025/4/13
日本-1115	男	広島	2025/4/16
日本-851	男	島根	2025/4/21
日本-815	男	山形	2025/4/26
日本-993	男	山梨	2025/5/13
日本-907	女	東京	2025/5/16
日本-796	男	島根	2025/5/16
日本-974	男	山形	2025/5/26
日本-817	女	神奈川	2025/5/26
日本-1094	女	山梨	2025/5/28
日本-806	男	神奈川	2025/6/16
日本-1095	男	広島	2025/7/10
日本-795	男	静岡	2025/7/20
日本-949	男	愛媛	2025/7/24
日本-832	男	神奈川	2025/8/7
N-007	女	岡山	2025/8/10
日本-1032	女	東京	2025/8/17
日本-985	女	埼玉	2025/9/22
日本-915	男	宮城	2025/9/22
日本-1045	男	東京	2025/9/26
日本-828	女	茨城	2025/9/29
日本-1023	男	東京	2025/10/2
日本-844	女	東京	2025/11/3
日本-1020	女	青森	2025/11/8
日本-978	女	新潟	2025/11/12
日本-835	男	群馬	2025/11/17
日本-904	男	東京	2025/11/17
日本-1024	女	愛媛	2025/11/26
日本-943	女	愛知	2025/11/29
日本-836	女	千葉	2025/12/5
日本-920	女	神奈川	2025/12/17
日本-1042	女	東京	2025/12/23
日本-799	女	岡山	2026/1/9
日本-837	女	神奈川	2026/1/26
日本-843	男	埼玉	2026/2/4
日本-1148	男	山形	2026/2/11

日本-1031	女	東京	2026/2/13
日本-826	女	神奈川	2026/2/23
日本-911	女	静岡	2026/3/2
日本-921	女	埼玉	2026/3/2
日本-831	女	宮城	2026/3/9
日本-900	女	神奈川	2026/3/16
日本-906	男	東京	2026/3/16

⑥犬舎及び医療管理

副管理長が中心となり、飼育方法、医療方針について、全拠点的な統一を進めた。

⑦協会所有犬一覧

区分	性別	頭数
繁殖犬	雄	16
	雌	26
	小計	42
パピー		79
訓練犬		72
盲導犬 ※認定盲導犬含まず		214
引退犬		191
繁殖引退犬		64
PR 犬		10

※認定盲導犬（国内任意団体・海外取得犬）は、協会所有犬ではないため、盲導犬数には含まず

（３）盲導犬（以下、ユーザー）に対するフォローアップ（以下、F U）

当協会全ユーザーに対して定期的に状況確認し、問題の予防と早期発見/早期解決に努めた。

定期F Uは計２８０回実施した。

問題解決/健康相談/その他などの非定期F Uは計１６０回実施した。

（４）盲導犬訓練技術・育成技術の向上

①訓練士資格制度に基づいて、各拠点責任者や指導担当者による審査会実施。

業務評価面談とも連動して、訓練技術向上と訓練士育成を図った。犬の評価会（TP）についても見直しを図り、全拠点的な統一を進めた。

②動物福祉および訓練理念に関する考え方を整理するため、動物行動学の専門家を講師に招き、訓練部責任者を対象とした勉強会を実施した。その後、各訓練部責任者が現場に向けてフィードバックを行い、理念の共有と実践に努めた。

（５）施設整備

広島訓練センター開設準備を進めた。加えて、2030年度以降の仙台訓練センター、富士ハーネス、島根訓練センターの今後の在り方、役割についても検討。

2. 盲導犬歩行指導員等育成事業

(1) 准訓練士養成

1年生3名採用。2年生2名の内、1名を准訓練士として認定。

(2) 盲導犬訓練士養成

全国盲導犬施設連合会より、3名認定。

(3) 盲導犬歩行指導員養成

全国盲導犬施設連合会より、2名認定。

3. 調査研究事業

(1) 繁殖研究

これまでに培った技術を用いて凍結精液作製。皮膚疾患の発症を減らす為の指標作りや繁殖犬の選抜・交配の組合せに役立てるためのデータ収集等を実施した。

(2) 研究協力

東京大学の盲導犬歩行学研究室による遺伝子解析研究の利活用について、新たに東京大学と理化学研究所と連携した取り組み開始に向けて調整中。

4. 視覚障害支援事業

(1) 盲導犬歩行についての理解促進

集客型盲導犬体験歩行会（日帰り）を73回、個別対応型盲導犬体験歩行（ステップアップ体験）を9回、合計564名に盲導犬体験歩行を実施し、新規登録者は103名となった。そして、より詳しく盲導犬を知る機会となる盲導犬説明会（1泊2日）を16回開催し、28名の参加があり、盲導犬貸与申請書を13名に交付した。また、オンラインによる当事者向け盲導犬情報セミナーを4回開催し、視覚障害当事者は40名、その他支援者は7名の参加となった。

(2) ユーザーコミュニケーション

前年度に盲導犬を貸与したユニットを対象とした「盲導犬新ユニット出発式」を3拠点（島根・広島は26年度に繰越開催）で開催し、支援者とともに盲導犬24ユニットの門出を祝った。6歳になる盲導犬を対象とした6歳時コミュニケーション会を各拠点で実開催とオンラインで開催し、33ユニットが参加、盲導犬ライフの折り返し地点として、引退や代替へ向

けて考え始めるよい機会となっている。「パートナーズ」を年3回、「盲導犬ユーザー通信」を年2回発行、「パートナーズカフェ」というオンラインサロンを年3回開催した。大地震や大雨などの災害時には、適宜、ユーザーへの安否確認を行った。例年実施しているユーザー満足度を中心とした定期聞き取り調査を行った。盲導犬取得待機期間においても協会からの情報発信を怠らず、良好なコミュニケーション醸成に努めた。

(3) 視覚障害者在宅生活訓練（白杖歩行訓練等）

全拠点において、のべ617名に対し、909コマの訓練を行った。訓練科目は白杖歩行訓練、スマートフォンやパソコンなどのICT訓練のニーズが高く、例年同様に訓練希望の9割弱がこの2つの訓練となっている。

(4) 視覚障害リハビリテーション相談

盲導犬や視覚障害リハビリテーション訓練、福祉制度などを知りたい当事者や家族のべ628名から725回の相談があった。

(5) 短期視覚障害リハビリテーション訓練

スマイルワン仙台で5回開催し、参加者数は合計18名であった。うち中学生を対象にした短期リハを春休みに開催した。

(6) 視覚障害児キャンプ

スマイルワン仙台にて8月2日から4日（2泊3日）で開催し、7家族15名が参加。湖でのカヌー体験をメインプログラムで行い、白杖や盲導犬体験歩行やタンDEM自転車体験など、普段体験できない内容を実施した。今年も宮城教育大学の准教授や学生にも関わっていただき、参加者へのよりよい支援を提供している。

(7) 各種講習会の開催

筑波技術大学新入生向けの盲導犬と白杖歩行の講義や鉄道利用講習会など当事者向けを10回、支援者向けに視覚障害者のガイド（誘導方法）や視覚障害支援に関する講習会を33回開催した。iPhoneサポーター講習会を仙台で1回開催した。

(8) 関係団体（当事者・行政・支援者・眼科医・盲学校）との連携

慶應義塾大学病院眼科との共同研究として、「ロービジョンケア・ハブ」は2年目を終えて、186件のカウンセリング対応と251件の見学や軽微な相談対応を行った。また、大学病院等（東北大学、信州大学など）におけるロービジョン外来に38回職員を派遣し、50名の相談対応を行った。盲学校（平塚、静岡、松本など）には歩行訓練指導への職員派遣を行った。行政については、全国市区町村の障害福島窓口約2,100か所に協会資料を送付し、協会との連携を行った。

(9) 各種研修会への参加

視覚障害リハビリテーション研究大会（東京）で事例報告を行い、また、情報化対応支援者研修会（日盲社協）、身体障害者補助犬訓練者等研修会（国リハ）、視覚障害者生活支援研修会（国リハ）、視覚障害生活訓練等指導者養成課程フォローアップ研修会（日ラ）、日本歩行

訓練士会研修会 等など職員のスキルアップに繋がる機会へ視覚障害サポート部職員を積極的に派遣した。

5. 広報・普及推進事業

「視覚障害者が過ごしやすい社会」を実現するため、『盲導犬の受け入れ理解促進』『若年層への教育』『行政との連携』を重点事業として事業展開した。今後もオンラインでの情報発信の推進、デジタル化を本格推進することで、広範囲への理解浸透を目指していく。

(1) 盲導犬や視覚障害の理解促進活動

①視覚障害者サポート・盲導犬受け入れセミナーの実施

視覚障害者への適切な情報提供や移動支援、障害の捉え方について理解をはかることを目的とし、事業者を対象とするセミナーを合計117回実施した。

・ 神奈川センター	……	28回	(553団体	1,596人)
・ スマイルワン仙台	……	18回	(517団体	602人)
・ 富士ハーネス	……	58回	(3,979団体	4,091人)
・ 島根パピネス	……	13回	(237団体	411人)
・ オンライン版	……	776人	が視聴	

②行政との連携

ユーザー在住地において、住みやすい街づくりの協力を依頼することを目的とした首長訪問を合計7回（神奈川5回、富士1回、島根1回）実施した。

また、行政と連携した理解促進活動を合計20回（神奈川10回、仙台3回、富士1回、島根6回）実施した。

③一般市民向けの理解促進活動

盲導犬や、視覚障害に対する理解促進のために実施した実演・講演は計80回、社会貢献活動を実施した企業・団体の贈呈式は計66回、商業施設活動は計31回、街頭での理解促進活動は計88回、合計265回実施した。

i) 一般実演

・ 神奈川センター	……	35回
・ スマイルワン仙台	……	24回
・ 富士ハーネス	……	8回
・ 島根パピネス	……	13回

ii) 贈呈式

・ 神奈川センター	……	16回
・ スマイルワン仙台	……	16回
・ 富士ハーネス	……	14回
・ 島根パピネス	……	20回

iii) 商業施設活動

・ 神奈川センター	……	12回
・ スマイルワン仙台	……	10回
・ 富士ハーネス	……	0回
・ 島根パピネス	……	9回

iv) 街頭活動

・ 神奈川センター	……	20回
・ スマイルワン仙台	……	13回
・ 富士ハーネス	……	24回
・ 島根パピネス	……	31回

④富士ハーネスでの理解促進活動

個人・団体の見学者に対する盲導犬デモンストレーションを合計461回実施し、12,483名が来館。また、来館者がより理解しやすいよう館内掲示物を一新。掲示物の入替えや効果的な見せ方を検討し、気軽に立ち寄ってもらう環境作りを推進した。新規客層来館を狙った特別イベントを春、夏、冬、年3回開催し、盲導犬と視覚障害の理解を促進した。

⑤動物介在活動（AAA）・動物介在療法（AAT）

北里メディカルセンターでの動物介在療法に協力。神奈川県立こども医療センター、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、沖縄南部療育医療センターにおいて計8回の動物介在活動を実施。また、1月18日に動物介在療法シンポジウムを他2団体と共催した。

⑥その他

第31回 盲導犬育成チャリティゴルフ大会を開催

開催日 12月3日（水）

（2）若年層への教育活動

①盲導犬小中学校キャラバン

次世代を担う児童・生徒達に盲導犬と視覚障害の正しい情報・知識を提供することを目的とし、全国の小中学校訪問活動を中心とする小中学校キャラバンを合計240回（433校31,797人）実施した。

・ 神奈川センター	……	73回（73校 10,207人）
・ スマイルワン仙台	……	63回（63校 3,377人）
・ 富士ハーネス	……	21回（21校 972人）
・ 島根パピネス	……	77回（77校 4,576人）
・ オンライン版	……	6回（参加199校 12,665人）

②教科書や教材への情報掲載推進

盲導犬や視覚障害について掲載されるよう、教科書出版社への情報提供を目的として、協会監修の児童書「盲導犬大百科」を教科書・教材出版社15社へ配布した。

(3) アドボカシー活動

ユーザーから「受け入れ拒否があった」「当事者では解決できない」という訴えに対し、問題解決の対応を合計 71 件実施した。

(4) 広報活動

①マスメディアでの広報活動

メディアリリースを 28 回実施。広島県内のメディアを対象とした勉強会を 1 回実施。メディア掲載回数は 722 回だった。

	神奈川センター 東京事務所	スマイルワン 仙台	富士ハーネス	島根パピネス
テレビ	6	12	1	69
新聞	46	30	43	20
WEB	177	27	80	114
その他	66	7	9	15
合計	295	76	133	218

②ホームページ・WEBメディアでの広報活動

i) ホームページの運営

年間訪問者数 96,434 人

ii) SNS、ブログ運営

インスタグラム：更新 340 回、フォロワー数 4,959 人

ユーチューブ：更新 26 回、フォロワー数 6,310 人

X(エックス)：更新 428 回、フォロワー数 12,873 人

フェイスブック：更新 106 回、フォロワー数 5,250 人

アメーバブログ：更新 8 回

③刊行物を活用した広報活動

A4 版 12 ページの会報誌「盲導犬くらぶ」を、年 4 回（118 号～121 号）、合計 177,800 部、音声 CD 1,277 部を発行した。

④盲導犬や視覚障害の理解に関する実態調査

インターネット調査「盲導犬および視覚障害者に関する意識調査」として、全国の 16～69 歳の男女 1,200 人を対象とした一般市民向け調査及び全国の事業所で働く 20～69 歳の男女 1,000 人を対象とした調査を実施した。今後も調査を継続し、社会の理解度の変化を定点観測していく。

⑤情報危機管理

盲導犬の扱い方や暑さ対策などについての問い合わせや意見が 259 件ありこれに対応した。なお、こうした情報は他協会の案件も多数含まれる。

6. 総務事業

(1) 人財育成

- ①自由研究および研究改善活動を奨励、職員研究発表大会を1月に開催し12題が発表された。
- ②獣医療・産科研修に獣医療関係職員4名が参加した。
- ③同行援護従業者養成課程に6名派遣した。
- ④ハラスメント等の内部相談窓口対応を担うために必要な認定ハラスメント相談員養成講習を2名が受講した。

(2) デジタル活用の推進と資産管理の最適化

組織全体の課題となっている業務負担の軽減のため、デジタル活用による作業の効率化やAIを用いた業務プロセスの見直しを進めた。また、設備や備品の管理に着手し、情報の一元管理と効率的なファシリティマネジメントの実現へ向けて整備進行中である。

(3) 危機管理対応の見直しと働く環境整備

狭隘化していた東京事務所を西早稲田へ移転、神奈川訓練センターの大規模修繕工事を筆頭に各センターの老朽化した設備を刷新するなど、就業環境の改善を着実に進めた。ソフト面では職場環境の見直しのプロジェクトチームを中心に働く環境を見直したり、職員や犬の熱中症対策、内部相談窓口の活用促進に取り組んだ。

7. 国際事業

(1) 盲導犬の認定

- ① 当協会以外の盲導犬認定はなし。2024年度に認定していたフランスのユーザーは留学を終え帰国。
- ② 海外補助犬使用者期間限定証明書を発行した。香港、アメリカ、スペイン、英国から計6名(8ケース)。

(2) 国際的な協力関係

国際盲導犬連盟(以下IGDF)が主催するオンライン会議に会計責任者理事、査察員、教育委員として定期的に参加した。査察員は韓国・サムソン盲導犬協会を査察。オーストラリアの団体と凍結精液交換、繁殖犬と凍結精液の確保のため英国の団体や繁殖家を訪問し、凍結精液輸入の交渉と成犬輸入のために英国内協力先探しを進めた。アメリカの団体へ子犬を1頭譲渡するなど各国の関係団体と積極的に連携・協力した。

(3) 職員の研修派遣

6月にイギリス・ウォリックにて開催されたIGDFのカンファレンス及び繁殖ワークショップが行われ、役職員を12名派遣した。
また、カンファレンスに合わせてオランダのKNGF、Guide Dogs UKを訪問し、訓練や犬舎

管理の様子を見学して積極的に情報交換と交流を行った。2026年のカンファレンスを横浜で開催することが決まり、開催準備を進めた。

8. 関係団体協力事業

(1) 日本盲導犬協会ユーザーの会、ボランティア委員会

- ① 日本盲導犬協会ユーザーの会については総会（5月11日）、仙台ワークショップ（9月14日）、協会との懇談会（2月20日）へ職員が参加し、交流をはかった。
- ② ボランティア委員会については、3月8日に「ボランティアミーティング」をオンラインで開催し運営に協力した。また、毎月一回行われるボランティア委員会の会合に参加し意見交換を行った。

(2) 全国盲導犬施設連合会、全日本盲導犬使用者の会、アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワーク（以下、AGBN）、その他補助犬団体への協力

- ① 全国盲導犬施設連合会の運営委員・訓練士認定委員として連合会の運営に貢献した。
- ② 全日本盲導犬使用者の会
5月24日～25日の総会ならびに交流会に職員1名を派遣しサポートを行った。
- ③ AGBNの運営・実務者会議へ出席し、他の育成団体との情報交換、繁殖協力を行った。犬の行動評価テストを引き続き実施した。オンライン会議と東日本盲導犬協会で行った実務者会議では国際担当職員が国内育成団体のために通訳サポートを行った。

(3) 視覚障害者当事者団体

2025年度は支援を行う大災害が無かった。

(4) 眼科医関連団体

5月23日～25日 第26回日本ロービジョン学会学術大会（広島市）にて、共催セミナーを企画し実施し、また、ブースを出展し、眼科医等に向けて盲導犬の情報発信や体験歩行を行った。

(5) その他団体

- ① 社会福祉法人日本介助犬協会の評議員を務めた。
- ② 視覚障害リハビリテーション協会から受託した事務局運営を行い、また1名が理事を務めた。
- ③ 一般社団法人日本身体障害者補助犬学会の理事を務め、オンラインで開催した身体障害者補助犬学会学術大会に運営協力した。
- ④ 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合が主催する視覚障害リンクワーカーの養成研修カリキュラム作成事業の検討委員を務めた。

9. 助成事業

(1) 歩行訓練事業助成金の公募

盲導犬歩行や白杖歩行でさらなる社会参加と自立が促進されると見込まれる視覚障害者を対象とした白杖等の歩行訓練事業に対する２０２６年度分助成金について公募した。６団体から申請を受け選考し、６団体に対し総額６３１万５千円の助成金交付を決定した。

10. その他

(1) 中長期計画の推進

２０２１年度に策定した中長期計画を進めた。訓練士養成システムは学生を有期契約職員として採用しOJTの幅を広げて養成に取り組み、１年目の３名に対しては訓練部門の責任者が通年で直接指導し、２年目の２名は盲導犬訓練現場にて訓練部マネージャーらの指導の下に実践的な訓練を実施した。従業員支援プログラム（EAP）は導入５年目となり、外部委託業者の報告から「職場の人間関係」「仕事の内容」などの相談対応を月に数件実施している実態が把握できた。訓練環境整備については神奈川訓練センターの大規模修繕が１２月に終了し、２０２３年から始めた増改築工事を含めすべての工事が終了し通常運用に戻った。また、２０２７年度の開設を目指している広島訓練センター（仮称）は設計図面が完成し、着工に向け準備を進めた。繁殖犬確保のための国際戦略としてはイギリスの盲導犬協会やブリーダーなどを訪問し、連携を深めた。社会環境整備事業については前記の４．視覚障害支援事業、５．広報・普及推進事業の通りに実施した。

また、ロービジョンの方々の相談支援事業として計画しているコミュニティセンター構想は引き続き用地選定を進めている。前段階として実施している慶應義塾大学病院内での早期相談支援「ロービジョン・ケアハブ」は、上記４．視覚障害支援事業の通りの成果を上げた。

II. 管理・運営

1. 理事・監事・評議員の状況

総数（2026年3月31日現在）
理 事...11人、 監 事...3人、 評議員...13人

2. 理事会・評議員会・常任理事会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

開催年月日	現在数	出席数	議 案	審議結果
2025 年 5 月 26 日	14 人 (内監事 3 人)	9 人 (内監事 2 人)	第 1 号議案／2024 年度事業報告及び決算報告の件	議決 (全員賛成)
			第 2 号議案／規程新設の件	
			第 3 号議案／広島訓練センター(仮称)建設工事 施工業者入札について	
			第 4 号議案／第 1 回評議員会 開催の件	

			報告事項／その他報告事項	議決なし
2025 年 10 月 29 日	14 人 (内監事 3 人)	11 人 (内監事 3 人)	第 1 号議案／2026年度歩行訓練助成交付について	議決 (全員賛成)
			第 2 号議案／神奈川訓練センター外構工事追加について	
			報告事項／2025 年度 上半期事業及び収支報告	議決なし
			報告事項／業務執行理事の職務の分担執行状況の報告	
			報告事項／「IGDF カンファレンス 2026 in 横浜」進捗報告	
			報告事項／コンプライアンスの取り組みと状況報告	
			報告事項／神奈川訓練センター訓練棟大規模修繕進捗報告	
			報告事項／ユーザー満足度調査報告	
			報告事項／2026年度 役員会スケジュール	
			報告事項／その他報告事項	
2026 年 1 月 臨時理事会 (決議の省略)	14 人 (内監事 3 人)	書面送付 11 人(内監事 3 人)	第 1 号議案／東京事務所移転について	議決 (全員賛成)
2026 年 3 月 18 日	14 人 (内監事 3 人)	11 人 (内監事 3 人)	第1号議案／2026 年度事業計画及び予算の件	議決 (全員賛成)
			第2号議案／組織変更の件	
			第3号議案／遺贈を指定寄付として受ける件	
			第4号議案／各種規約改定の件	
			第5号議案／統括管理者の選任の件	
			第6号議案／遊休地売却の件	
			報告事項／業務執行理事の職務の分担執行状況について	議決なし
			報告事項／広島訓練センター建設計画進捗について	
			報告事項／コンプライアンスの取り組みと状況について	
			報告事項／東京事務所移転について	

(2) 評議員会の開催状況

開催年月日	現在数	出席数	議 案	審議結果
2025 年 6 月 12 日			第 1 号議案／2024 年度 事業報告及び決算報告の件	議決 (全員賛成)

	16 人 (内監事 3 人)	9 人 (内監事 3 人)	第 2 号議案／規程新設の件	議決なし
			報告事項／その他報告事項	
2025 年 10 月 29 日	16 人 (内監事 3 人)	9 人 (内監事 3 人)	報告事項／2025 年度 上半期事業及び収支報告	議決なし
			報告事項／業務執行理事の職務の分担執行状況の報告	
			報告事項／「IGDF カンファレンス 2026 in 横浜」進捗報告	
			報告事項／コンプライアンスの取り組みと状況報告	
			報告事項／神奈川訓練センター訓練棟大規模修繕進捗報告	
			報告事項／ユーザー満足度調査報告	
			報告事項／2026年度 役員会スケジュール	
			報告事項／その他報告事項	

(3) 常任理事会の開催状況

常任理事会を次のとおり開催し、日常業務の執行及び重要業務の報告・審議を行った。

2025年 4月17日、5月16日、6月13日（書面）、7月17日、8月20日、9月12日、
10月16日、11月13日、12月15日

2026年 1月15日、2月18日、3月6日

3. 職員の状況

2026 年 3 月 31 日現在の職員の状況は以下の通りである。

センター	部署	男	女	計
神奈川センター	総務部	1	3	4
	訓練部	5	15	20
	研究室	0	4	4
	視覚障害サポート部	1	1	1
	広報・コミュニケーション部	1	5	6
	国際部	0	1	1
	訓練士学校	0	5	5
	センター計	8	34	42
スマイルワン仙台	総務部	1	2	3
	訓練部	2	12	14
	視覚障害サポート部	1	3	4
	広報・コミュニケーション部	1	2	3

	センター計	5	19	24
富士ハーネス	総務部	2	1	3
	訓練部	1	16	17
	視覚障害サポート部	0	2	2
	広報・コミュニケーション部	1	2	3
	センター計	4	21	25
島根パピネス	総務部	1	2	3
	訓練部	1	3	4
	広報・コミュニケーション部	1	2	3
	センター計	3	7	10
東京事務所	総務部	5	6	11
	視覚障害サポート部	1	3	4
	広報・コミュニケーション部	0	2	2
	渉外部	2	1	3
	センター計	8	12	20
職員合計	総務部	10	14	24
	訓練部	9	46	55
	研究室	0	4	4
	視覚障害サポート部	3	9	12
	広報・コミュニケーション部	4	13	17
	国際部	0	1	1
	訓練士学校	0	5	5
	渉外部	2	1	3
	総計	28	93	121
常勤の理事		2	0	2

センター長は総務部に含める

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないので記載を省略する。

公益財団法人 日本盲導犬協会